



令和元年11月5日（火）
菖ヶ丘小学校 学校通信 学力特集号

夢や目標をもち、自分の言葉で自分を表現し
感謝の気持ちをもつ 子どもの育成をめざします

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

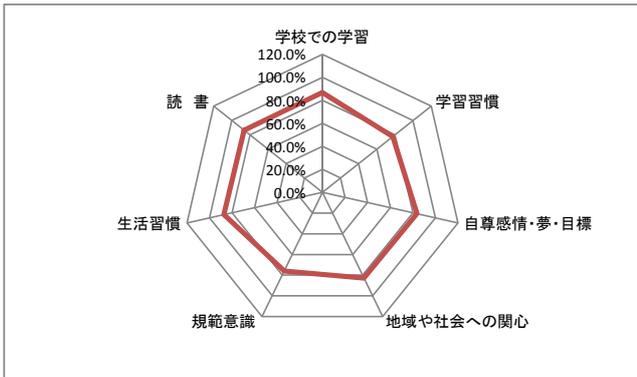
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	<ul style="list-style-type: none"> どの領域も全国平均正答率を下回っている ほぼ全ての問題について全国平均無解答率を上回っている。 解答の仕方では、選択式より、記述式の正答率が低い。 	下回っている
算数	<ul style="list-style-type: none"> どの領域も全国平均正答率を下回っている ほぼ全ての問題について全国平均無解答率を上回っている。 解答の仕方では、選択式より、記述式の正答率が低い。特に短答式の正答率が著しく低い。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校での学習においては、「総合的な学習の時間」等においてICT等を活用し調べ学習に積極的に取り組んでいる。しかしながら、授業で課題解決に向けて自分で考え自分から取り組むことには課題がある。 読書を好むが、読書習慣が身に付いている児童は多くない。 学習習慣においては、家庭学習の時間が平日一日当たり1時間以上の児童が、40%しかいないことが課題である。学校のきまりを守っていると答えた児童の割合が低く規範意識を高める必要がある。 「自分によいところがある」「将来の夢や目標をもっている」に対して肯定的な回答をした児童が少ないのが課題である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 朝の10分間の活動として、音読、計算、読書等取り組む内容を学校全体で統一実施している。特に計算や国語の時間では、基礎学力の定着を図っている。また、音読は全校放送で一斉音読に取り組み、声に出して読むことのよさを味わわせている。
- 5校時前に「読書タイム」を設定し、落ち着いた雰囲気の中授業に取り組めるようにするとともに、読書への関心を高めている。
- 課題解決に向けての取組のよさや自分の考えを分かりやすく書いている児童のノートを展示し、学習意欲を高めていこうとしている。
- 日々の活動において目標を設定させ振り返ることを重ね、自分の伸びや課題を見つめたり、他人のよさを感じ取るようにしている。
- 道徳の学習において、「規律の尊重」「希望・努力」等重点的に学ばせたい。
- 「児童に考えをもたせるための手立ての研究」をテーマにして、互いに授業公開をし職員同士が学び合ったり、学力向上推進担当教員と連携し授業に取り組んだりしながら教員の授業力の向上を図っている。
- 5・6年生は、教科担任制により授業の質の向上を図っている。多面的な視点で児童を見取り、学習面だけでなく個々のよさを引き出したいと考えている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 中学校区三校で連携し、「スタディーウィーク」の取組を年3回実施し、家庭学習の習慣を身に付けようとしている。また、児童の家庭学習ノートを展示し、進んで家庭学習に取り組む態度を養おうとしている。
- 家庭学習の取組について教員の研修を行い、学級懇談会等で保護者へ家庭学習の重要性を啓発している。
- 長期の休みに入る前には、「菖ヶ丘小学校のきまり」を配布し、長期休暇期間中の生活の仕方を共通理解できるようにしている。